日本経済　～３月短観から読み解く今期業績見通し～

経済調査部　永濱 利廣

今年度は大幅増収増益の見込み

４月１～２日にかけて公表された３月日銀短観の大企業調査は今期業績予想の先行指標として注目される。そこで同調査を用いて、４月下旬から本格化する期末の決算発表において堅調な今年度計画が見込まれる業種を予想する。

まず売上高を見ると、2009 年度下期は依然として前年比マイナスの計画となるものの、前回調査からは＋0.1%の上方修正となっており、10 年度は上期から前年比プラスに転じる計画となっている。

一方、経常利益は 09 年度下期から前年比で大幅増加に転じており、前回調査からの修正率も＋5.9%となっている。更に、10 年度の経常利益も増益計画となっており、前年比で＋21.1%の大幅増益見込みとなっている。このことから、企業がこれまでコスト削減を進めてきた結果、収益が改善しやすい状態にあるといえる。

結局、産業全体で見れば、10 年度は 07 年度以来３年ぶりの増収増益を達成する計画となる。特に、夏場に向けて４－６月期の企業業績が見え始め、収益回復への市場の期待が高まれば、株式相場の押し上げ要因となることが期待される。

大幅増収期待の資源、機械、素材関連

続いて、３月短観の売上高計画を基に、10 年度において大幅な増収が見込まれる業種を選定する。

製造業では「金属製品」「造船・重機、その他輸送用機械」、非製造業では「建設」「不動産・物品賃貸」を除く全ての業種で増収計画となる中で、最大の増収計画を立てているのが「鉱業・採石業・砂利採取業」の前年比＋21.4%である。それに続くのが「生産用機械」の同＋17.7%、「鉄鋼」の同＋8.8%、「はん用機械」の同＋6.5%、「化学」の同＋5.7%であり、資源や機械、素材関連業種が連なる。

従って、10 年度の業績見通しにおいては、こうした業種に関連する企業について、どれほど強気の計画が打ち出されるかが注目されよう。特に、09 年度は自動車や電子部品・部材メーカーの業績回復が目立ったが、10 年度は中国など新興国の経済成長に加えて設備投資復調の恩恵を受けやすい機械や素材関連の増収計画が期待される。

増益の牽引役は電気機械、鉄鋼、機械

続いて、３月短観の経常利益計画から 10 年度の業績を牽引することが期待される業種を見通す。ただし、経常利益については 09 年度が赤字により前年比の計算が不可能な業種が存在するため、10 年度経常利益計画の業種別寄与度をもとに、注目業種を抽出した。

結果を見ると、増益寄与度が最も大きいのはウェイトの大きい「電気機械」の＋5.7pt となり、全産業における増益率＋21.1%の実に 26.8%を説明することになる。それに続くのが高い増収計画を立てている「鉄鋼」の＋3.4pt、「生産用機械」の＋2.0pt、「自動車」「運輸・郵便」の＋1.9pt となる。

このように、来期の経常利益見通しでは、全産業の増益幅を牽引する業種として、売上高と同様に中国など新興国の経済成長や設備投資復調の恩恵を受けやすい電気機械や鉄鋼、機械、自動車に関連する企業が注目される。ただし、これらの業種は中国の金融引き締めの影響も受けやすいことには注意が必要だろう。

ながはま としひろ（主席エコノミスト）